

教 育 長 様

代表者 校 園 名： 本田小学校 公印  
 校 園 長 名： 錢本 三千宏  
 電 話： 6581-1531 F A X： 6581-3194  
 申請者 校 園 名： 大阪市立本田小学校  
 職 名・名 前： 指導教諭 今村 友美  
 電 話： 6581-1531 F A X： 6581-3194  
 代表者校 園 事務職員名 大谷 由香

## 平成 28 年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究 申請書

◇ 本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース： <b>いずれかを○で囲んでください。</b> ◯個人研究コース ・ グループ研究 A コース ・ グループ研究 B コース 継続研究： <b>いずれかを○で囲んでください。</b> 継続研究 ( 2 年目 ・ 3 年目 ・ 4 年目 )
2	研究テーマ 縦（幼小の接続）と横（アクティブ・ラーニング）をデザインする音楽科指導の研究 ◆ 研究内容のキーワード： <b>研究の内容をキーワードで書いてください。</b> （【例】学力向上、体力向上等） アクティブ・ラーニング 協働学習 コミュニケーション I C T 機器の活用 音楽づくりの系統的指導活用する力 幼少連携（就学前教育から小学校教育への接続） 生涯にわたる音楽生活の基礎
3	研究目的： <b>箇条書きで端的に書いてください。</b> ○社会で学び続けるための資質・能力をのばすため、音楽科における <b>アクティブ・ラーニング</b> を研究する。 ○児童がこれまでの学習で身に付けている知識・技能を、新たな問題解決に対して <b>活用する能力の育成</b> を図る。 ○ <b>生涯音楽を愛好する心情</b> と、豊かな情操を養い、学びに向かう力を高める。 ○園児・児童が <b>コラボレーション</b> して音楽活動を行うことで、 <b>幼小の効果的な学びの接続</b> を探る。 ○近隣小学校で授業実践を行い、本校児童だけでなく多くの児童が「つくる喜び」「表現する楽しさ」を体験する機会をつくり、指導者の「音楽づくり」のあり方の理解を深める。
4	研究内容： <b>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</b> 小学校学習指導要領が示す音楽科の目標には、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」とある。「音楽に対する感性を育て」「豊かな情操を養う」ことが、 <b>生涯にわたり音楽を愛好し、音楽を人生の中に位置づける基礎</b> となる。音楽科で学習する「表現」の領域には、歌唱・器楽・音楽づくりの活動があり、この 3 つの活動と「鑑賞」領域の活動がバランスよく実践されてこそ音楽科教育の意義があるといえる。しかし「音楽づくり」が授業で実践されることは、「歌唱」「器楽」と比べるとかなり低い実情にある。そこには、まだ指導法が十分確立されていないことが要因であるともいえるが、我が国における演奏至上主義に課題があるとも考えられる。既存の音楽を演奏することばかりが音楽科教育と考えられている事実もあるといえる。こうした音楽授業では、指導者の指示が優先されることとなり、児童の思考力や判断力を育てることは後回しになることが多い。 そこで、本研究では「音楽づくり」を中心に、『児童が自ら進んで <b>友だちとコミュニケーションし、試行錯誤を重ねながら、音楽で表現する喜び</b> を味わわせる。』『 <b>個人ではなく、ペアやグループで音楽をつくり、仲間と合わせる心地よさや仲間と創り出す楽しさ</b> を体験させる。』の 2 点を目標とし、 <b>アクティブ・ラーニング</b> を基盤とした授業実践を進める。 ① 低・中・高学年の発達に応じた「音楽づくり」の系統的指導内容を探る。 前年度の「創立 140 周年記念コンサート」で多くの児童は、合唱し歌声を合わせることの心地よさや、楽器を演奏する楽しさ、成功体験することの感動を味わうことができた。今年度は、音楽づくりの授業を通して「できるようになる喜び」から「音楽に思いや意図を反映させる喜び」へと進める。それぞれの発達段階で、「音楽づくり」を楽しむことができるようになる具体的な指導方法や教材・教具の位置づけを明確にする。さらに、これからの社会を生き抜くためには、 <b>これまでに身に付けた知識や技能をいかに活用していくか</b> ということが重要となる。既習内容を活かしながら新たに学習した内容を加え、児童が納得のいく作品をつくることのできる学びの方法を研究する。 ② <b>I C T 機器を効果的に活用する。</b> 本校は、I C T 活用事業先進校として今年度 4 年目の研究を行う。音楽科においてもタブレット端末や電子黒板を活用した実践を行ってきている。機器を扱う基礎的なスキルは児童が身に付けてきているので、「音楽づくり」における <b>協働的な学びが成立し、アクティブラーニングにつながる機器の活用方法を明確にする</b> 。音の特性として、瞬時に消えてしまうというものがある、そこで、I C T 機器を用いることにより、音の動きを視覚的に提示する方法や、児童が容易に録音し繰り返し再現する方法、ソフ

トウェアの効果的な活用の方法を明らかにし、教材コンテンツを作成していく。		
③	幼少連携の充実を図る。 幼児期の音楽教育がもたらす効果として、 <b>言語能力の向上・運動能力の向上・社会性の向上</b> が挙げられている。特に、社会性の向上に関しては、人間の総合的な生きる力を高めることが分かってきている。そこで、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、大阪市就学前教育カリキュラムの文献研究を深め、「音楽づくり」を柱とした指導法を工夫することで、 <b>幼児期から小学校1年生への効果的でスムーズな教育の接続を図る</b> ことができるようにする。	
④	他校へ向けて、研究内容を発信する。 他校において授業実践を行い、研究を広め、指導者の音楽への意識改革を行う。	
5	活動計画：日程など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。	
4月	年間指導計画の作成 九条幼稚園保育参観	
5月	年度当初児童アンケートの実施（音楽科における意識調査） 指導者の音楽科における意識調査実施（西区小学校） 交流保育・授業案検討会	
6月	交流保育・授業研究会（於：大阪市立九条幼稚園） 筑波大学附属小学校学習公開・初等教育研修会	
7月	韮幼稚園保育参観 交流保育・授業案検討会	
8月	音楽科実技研修会開催（於：大阪市教育センター） 夏の音楽指導セミナー参加（8月8日・9日 於：日経ホール）	
9月	交流保育・授業研究会（於：大阪市立韮幼稚園）	
10月	公開授業研究会（於：大阪市立本田小学校） 近隣小学校での授業実践	
11月	5年生 大阪市音楽交流会参加（於：クレオ大阪中央）	
12月	4年生 西区音楽交流会参加（於：大阪市立日吉小学校）	
1月	公開授業研究会（於：大阪市立本田小学校）	
2月	筑波大学附属小学校学習公開・初等教育研修会	
3月	年度末児童アンケートの実施（音楽科における意識調査） 指導者の音楽科における意識調査実施（西区小学校） ☆授業研究会・音楽科実技研修会講師（於：大阪市立北津守小学校）（6, 7, 10, 11, 12, 1月）	
6	見込まれる成果：学力向上をはじめとした大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの様々な力の向上、教員の指導力の向上をふまえ端的に記載してください。	
○学力の向上について 「音楽づくり」の学習を通した協働的な学びにより、21世紀型スキルで提唱されている創造力とイノベーション、コミュニケーション、問題解決の能力の育成が図られる。		
○道徳心・社会性の育成について 友だちと意見を交わしながら何度も試行錯誤を重ね作品を完成させることは、これからの社会で困難にあったとき、他者と協調しながらくじけず対処していく力につながる。また、小学生と幼稚園児がともに学ぶ機会を設けることで、集団の中で良好な人間関係を形成し、自らの役割を認識して行動する能力を育てることができる。		
○教員の指導力向上について 先進的な研究実践を実際に参観し研究会に参加すること、「音楽づくり」に特化した研修会に参加することで教科の本質に迫り、指導力の向上を図ることができる。他校に向けた授業実践で、専門性の高い交流ができる。		
7	成果の検証方法：客観的な指標により、必ず数値で示すことができる方法で記述する。	
○音楽科における児童の意識調査を、年度当初と年度末に実施し、変容を調査する。		
○音楽科に対する教員の意識調査を、年度当初と年度末に実施し、変容を調査する。		
○交流する幼稚園の指導者にアンケート調査を行う。		
○公開授業や、他校での授業実践の際、形成的授業評価を実施する。		
○幼稚園児50名以上、他校での授業実践を（1単元4時間計画）3学級以上で実施する。		
8 研究発表の日程・場所(予定) 日程： 平成 28年 10月 26日（水） 場所：大阪市立本田小学校		
9 代表校園長のコメント 次期学習指導要領の構造化のイメージが教育課程企画特別部会で提案されている。この提案では、ハーバード大学のFadel博士の理念が大きく取り上げられ、「思考力・判断力・表現力（知っていること・できることをどう使うか）」に加え、「学びに向かう力、人間力等（どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）」が育成すべき資質・能力として取り上げられている。本教諭が音楽科の指導を通して育成しようとしているのは、知識・思考力・判断力・表現力に加え、この3つ目の資質・能力である。21世紀型能力の形成につながる貴重な研究である。強く推薦する。		

